

大崎市

かなつりゆうまつやましおどり  
金律流松山鹿踊



金津流鹿踊は、旧仙台藩領内に起源を持ち展開する 6 種類の鹿踊（仙台鹿踊群、行山流、金津流、春日流、四国愛媛宇和島周辺の鹿踊、明治期宮城県から移住した北海道開拓地の鹿踊）の一つです。

各組の伝・奥書によると、仙台藩士砲術家犬飼清蔵長明（1742～1826）から各地に広がったといわれています。芸能の形態は、8～10 名一組で、ササウを直立に背負い獅子頭をかぶって自ら太鼓を囃し唱えながら踊るものです。

大崎市松山には、伝授書「獅子踊免之事」(享和元年(1801))から、江戸時代に松山次橋に獅子踊組があり、金津流本流と言われる石関獅子踊組に伝授した記録がありますが、明治期に一度廃絶しています。「金津流松山鹿踊」は、平成 5 年（1993）に伝授先の石関系統の奥州市江刺区柳川の金津流梁川獅子踊から伝授されて復活し、翌年平成 6 年（1994）に保存会を設立し継承されています。

